

## これからも ものづくりを楽しんでいきたい

5年前、国上に移住し、「穂生窯」を開いた廣兼さんは、生活で使用する焼き物を作っています。これまでの移住の経験談や今後の制作への思いを伺いました。

「私の最初の移住は、高校生のときに旅行で行った場所なんです。とにかくそこで暮らしてみたくなって（笑）」京都出身の廣兼さんは、進学を機に憧れの沖繩に移住をします。

「元々のづくりが好きだったので、大学では陶芸を専攻しました。ですが、やっていくうちに『これは今の自分が本当にやりたいことか?』と思うようになって」

真剣に悩み、その後、沖繩で働きながら絵を描く道に進みます。

「当時は、描きたいものを描いては展示会を開くということに夢中でした。20年くらい絵を描き続けてきたところで、また陶芸をやりたいくなって、久しぶりに土を触ったんです。学生時



ひろかね ふみ  
**廣兼 史さん(国上)**  
●陶工 (陶磁器職人)



◀急須や湯呑みをはじめ、瓶、皿などを制作しています。



▲穂生窯のインスタグラム

代に覚えたことを体が覚えていて、ものづくりの楽しさを思い出しました」

その頃、現在、一緒に活動している井村さんと出会います。

「彼女が陶芸の修行を終えて、新潟で活動するということで誘ってもらったんです。そして、ものづくりが盛んな燕ということもあり、この地に共同で窯を開くことにしたんです」

現在は陶芸のほか、音楽に合わせ絵を描くライブペイントも行う廣兼さん。

「私にとって、絵は自分の内側を表現する感じで、陶芸は自分を表現するのではなく、自分から離れていく作業に感じられます。これからは絵画的なアプローチも生かしながら、昔からある作り方を大切にして作り続けたいです」

## 紙上ブログ

燕市長 鈴木カ



◀こちらは有料広告です。

「天神講」の季節になりました。学問の神様・菅原道真公の命日2月25日に、色鮮やかな御菓子をお供え、学業成就や子どもたちの健やかな成長を願う風習です。

今年も市内の菓子店の協力を得て、道の駅国上や新幹線駅内の燕三条ウイングなど6会場で「越後つばめの天神講菓子展」を行います。

既に受験生応援のため1月から販売していますが、これらが本番です。

粉菓子、生菓子、金花草糖といった種類があり、主役の天神様の表情もそれぞれのお店で違います。

皆様のご家庭でも、天神講菓子をお供えして、春を呼び込みましょう。



高評  
オリコン  
顧客満足度  
2022

！今回も！  
おかげさまで

**高評企業に選ばれました！**



光インターネット・ケーブルテレビ・電話

**NCT** 

**燕・分水・吉田** エリア

**お申し込み好評受付中!**

インターネット・ケーブルテレビ・電話

**エヌ・シー・ティ**

**0120-080-009**

電話受付時間 **9:30~17:30** (ドコモ光タイプCに関しては10:00~19:00)  
※上記時間以外・土日祝・お盆期間・年末年始は時間外受付に転送されます。



※この広報紙は、環境にやさしいペジタブル・オイル・インクを使用しています。